

### 3. 研究会開催

第1回から第8回は、2014年度に開催（研究論集第1号に掲載）

第9回から第13回は、2015年度に開催（研究論集第2号に掲載）

第14回から第16回は、2016年度に開催（研究論集第3号に掲載）

#### 第17回研究会

日 程： 2017年1月27日（金） 13:30～15:00

会 場： 専修大学生田校舎6号館623教室

報告者： 大崎裕子、山本耕資

出席者： 原田博夫、金井雅之、嶋根克己、大崎裕子、山本耕資、矢崎慶太郎

内 容： 大崎裕子「信頼と生活満足の関係に関する国際比較」

山本耕資「政策選好の分析：主観的幸福とソーシャル・ウェルビーイングをめぐって」

日本と韓国を対象に一般的な信頼が生活満足度に与える効果をパス解析を用いて分析した（大崎）。また「架空社会」における再分配政策の選好が主観的幸福度にどのような影響をあたえるのかについて、日本家計パネル調査から分析した（山本）。

#### 第18回研究会

日 程： 2017年4月14日（金） 14:50～16:20

会 場： 専修大学生田校舎3号館 社会知性開発研究センター3

報告者： 嶋根克己

出席者： 原田博夫、金井雅之、嶋根克己、飯沼健子、丸茂雄一、鈴木奈穂美、矢崎慶太郎

内 容： 嶋根克己「The Social Bond with the Dead」

葬祭儀礼が社会の近代化とともにどのように変化するのかについて、質的調査からの報告と、ソーシャル・ウェルビーイング調査結果の分析結果から発表した。とくに葬儀への参加率とGDPの間に負の相関が見られる点についての分析結果とその解釈について報告が行われた。

#### 第19回研究会

日 程： 2017年5月19日（金） 14:30～15:40

会 場： 専修大学生田校舎3号館335教室

報告者： 小林盾（成蹊大学）

出席者： 原田博夫、金井雅之、大矢根淳、飯沼健子、丸茂雄一、神原理、矢崎慶太郎

内 容： 小林盾「英語論文執筆のためのワークショップ」

American Journal of Sociology (AJS) 編集委員会を1年間担当した経験から英語論文を執筆するにあたり、どのような点に留意する必要があるか、とくに日本とアメリカにおける論文投稿の際の制度上の違いなどに関する報告が行われた。

---

#### 第20回研究会

---

日 程： 2017年5月26日（金） 14:00～15:40

会 場： 専修大学生田校舎3号館335教室

報告者： 丸茂雄一

出席者： 原田博夫、金井雅之、大矢根淳、飯沼健子、中村知子、矢崎慶太郎

内 容： 丸茂雄一「日本における収入格差の認知過程の可視化」

日本における収入格差の認知過程を明らかにするため、SEM（構造方程式モデリング）によるモデルを構築した。その結果、「経済的な不公平感」から「収入格差の認知」へのパス係数は、0.37（非標準解）であった（標本数：10,521）。このパス係数に対し、その区分に応じて最も明確な影響を及ぼす属性は、配偶者の有無であり、次いで年代、個人所得であった。さらに、属性相互の関係を分析した。

---

#### 第21回研究会

---

日 程： 2017年6月2日（金） 14:30～16:00

会 場： 専修大学生田校舎3号館335教室

報告者： 矢崎慶太郎

出席者： 原田博夫、金井雅之、嶋根克己、鈴木奈穂美、矢崎慶太郎

内 容： 稲葉陽二・吉野諒三『ソーシャル・キャピタルの世界』輪読 第6・7章

---

#### 第22回研究会

---

日 程： 2017年6月2日（金） 14:30～16:00

会 場： 専修大学生田校舎3号館335教室

報告者： 矢崎慶太郎

出席者： 原田博夫、金井雅之、嶋根克己、飯沼健子、矢崎慶太郎

内 容： 稲葉陽二・吉野諒三『ソーシャル・キャピタルの世界』輪読 第8・9章

---

#### 第23回研究会

---

日 程： 2017年6月23日（金） 14:30～16:00

会 場： 専修大学生田校舎3号館335教室

報告者： 鈴木奈穂美

出席者： 原田博夫、金井雅之、鈴木奈穂美、大矢根淳、丸茂雄一、矢崎慶太郎

内 容： 鈴木奈穂美「介護者の満足度の決定要因：SWB日本調査分析」

これまで家族介護者の幸福度研究は、ジェントロジーや保健・福祉的な観点から、要介護者との関係性の分析が多く、社会・経済的な要素を含めた介護者個人の幸福度に直接焦点をあわせたものは少ない。そこでソーシャル・ウェルビーイング研究調査の結果から、介護者の幸福度がどのような要因から規定されるのかについて報告が行われた。

#### 第24回研究会

日 程： 2017年6月30日（金） 14:30～16:30

会 場： 専修大学生田校舎3号館335教室

報告者： 林伸一郎（外務省アジア大洋州局中国・モンゴル第一課・上席専門官）

出席者： 原田博夫、金井雅之、嶋根克己、稲田十一、丸茂雄一、中村知子、大崎裕子、矢崎慶太郎、土屋昌明

内 容： 林伸一郎「モンゴル社会における『裂け目』の現状」

モンゴル社会の現状について、とくに近年の経済成長とその停滞の要因、および格差などの社会問題、また政治に関する国民意識などの点から発表が行われた。またモンゴルと日本社会との交流や関わりの経緯についても報告が行われ、今後モンゴル社会をどのように分析することができるのか、その展望について討論が行われた。

#### 第25回研究会

日 程： 2017年7月14日（金） 14:30～16:00

会 場： 専修大学生田校舎3号館335教室

報告者： 飯沼健子

出席者： 原田博夫、金井雅之、大矢根淳、飯沼健子、鈴木奈穂美、丸茂雄一、大崎裕子、矢崎慶太郎

内 容： 飯沼健子「Gender Issues in Japan and Korea: at the Crossroads of Objective Well-being and Subjective Well-being」

ジェンダー格差の問題は客観的なウェルビーイング指標を用いて論じられることが多く、ジェンダーに関係する主観的な幸福度についての研究が政策上なかなか考慮されることがないという点から、ソーシャル・ウェルビーイング調査の結果を用いて、日本と韓国の女性を対象に幸福度の規定要因に関する報告が行われた。

#### 第26回研究会

日 程： 2017年7月28日（金） 16:00～17:50

会 場： 専修大学神田校舎772教室

報告者： 吉野諒三（統計数理研究所）

出席者： 原田博夫、金井雅之、丸茂雄一、嶋根克己、飯沼健子、神原理、山本耕資、  
矢崎慶太郎

内 容： 吉野諒三「国際比較調査の知見の幾つか：各国の『世論調査の方法論』  
自体がその国の政治・経済・社会状況を映し出す」

同じ方法を使っているにもかかわらずその地域や調査主体の社会条件によって、得られる結果が異なるという視点から、サンプルデザインや調査モード、質問に対する回答傾向が社会によってどのような影響を受けるのかについて発表が行われた。またウェブ調査の可能性とその限界についての報告も行われ、今後ソーシャル・ウェルビーイング調査を実施していく上でどのような点に注意すべきかのレクチャーを受けた。

---

#### 第 27 回研究会

---

日 程： 2017 年 11 月 28 日（火） 11:00～12:30

会 場： 専修大学生田校舎 3 号館 338 教室

報告者： 芝井清久、稲垣佑典（ROIS-DS）

出席者： 原田博夫、金井雅之、丸茂雄一、大矢根淳、鈴木奈穂美、矢崎慶太郎

内 容： 芝井清久「核不拡散体制における IAEA 査察制度の役割とその課題」  
稲垣佑典「Web 調査における Satisfice 回答行動の分析」

核不拡散体制を構築するための IAEA 核査察の役割について、ゲーム理論的な視点からの分析が行われた（芝井）。また Satisfice（回答に必要な認知コストを払わない行動、端的にいうと“手抜き”）の傾向にある回答者をどのように検出することができるかについて潜在ランク分析を行いながら、回答者の能力を緩やかにランク付けし、回答者がどのような傾向にあるのかについて報告が行われた（稲垣）。